

① 芳賀綾 著

『日本人らしさの発見：
しなやかな「凹型文化」を世界に発信する』

(大修館書店)

世界の文化を、他者を慈しむ「凹型文化」と、他者を支配しようとする「凸型文化」に分けて比較することによって「凹型文化」の重要性を教示した著書です。

万物を愛でる「凹型文化」の代表的な国が日本ということ。日本人の心である「凹型文化」をこの一冊で再確認してみませんか。そして、欧米化していく私たちの生活スタイルを、そろそろ見直す時期なのかもしれません。(N. K.)

810.13 ||Hag

③ 三森ゆりか 著

『大学生・社会人のための
言語技術トレーニング』

(大修館書店)

言語技術とは、言葉を有効に使いこなすためのスキルです。本書では、大学生や社会人に必要な言語能力として、「説明する、報告する、対話する、論文をまとめる、質問する、分析する、討論する」など22の能力が挙げられていて、それらの能力を向上させるためのトレーニングが狙いです。

まず「グローバル社会に生きるための不可欠な言語技術とは？」から始まり、「スキルトレーニング」、「クリティカル・リーディング」、「作文技術」など、言語技術のスキルを、総合的にトレーニングできるような構成になっています。授業でのプレゼン発表やレポート・論文作成、そしてこれから就職活動する人に、必見の本です。(S.S.)

816 ||Sam



② コロナ・ブックス編集部 編

『イタリアの色』

(平凡社)

この書名から何色を連想しますか？ 私はトマト、そしてフェラーリの赤でした。本書は赤を含めた9色をテーマに、様々なイタリアを紹介してくれます。それは食べ物であったり、絵画であったり、広範囲に及びます。興味深いのは、同じ色でも何種類かに区分されていて、我々はその違いを言い表せるだろうかという点です。それぞれの色には簡潔な解説が付されていて、フルカラーの写真も相まって、思わずイタリアへ行ってみたいくなる1冊です。(T.F.)

757.3 ||Itar

④ 鳥飼玖美子 編著

『よくわかる翻訳通訳学』

(ミネルヴァ書房)

著者は、アポロ11号月面着陸や大阪万博などの国際舞台で同時通訳者として活躍し、文化放送「百万人の英語」で約20年間講師を勤めました。現在は大学教授を勤めながらNHK「ニュースで英会話」のテレビ講師として活躍しています。著者の同時通訳や翻訳の豊富な実務経験を踏まえて編集された本書は、翻訳学と通訳学の理論を分かりやすく解説した入門書となっています。

自分が現在学んでいる語学を将来通訳や翻訳で活かしたいと考えている本学学生の方々には、是非ともお勧めしたい本です。(F.O.)

801.7 ||Tor